

エコアクション21

# 環境活動レポート

(平成22年8月16日～平成23年8月15日)



作成日：平成23年10月20日



高木建設株式会社

## 目 次

1, 環境方針	3
2, 組織の概要	4
3, 基準年の環境負荷と環境目標	6
4, 環境活動計画の内容と達成状況	10
5, 環境活動の取組結果の評価	14
6, 社会及び地域への取組み	14
7, 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	17

## 1, 環境方針

### ○ 環境に対する基本理念

当社は「信頼・貢献・挑戦」のもと、『自然にやさしく、人にやさしく!』をスローガンとして、自然環境やそこで暮らしている人々に十分な配慮をし、影響する負荷を最小限に抑えるために努力を継続してまいります。社会的要請である温暖化防止と環境保全に対して当社としての姿勢と活動を明確にします。

### ○ 基本姿勢

社是を推進する基本要件は、「品質・安全・そして環境」と位置づけます。この三つの要件に共通する対応姿勢は、無理・無駄をなくし、整理・整頓・節約に努めることです。これを基本姿勢といたします。特にCO<sub>2</sub>の削減と雨水の利用に工夫します。

### ○ 環境方針

前記しました「基本理念」と「基本姿勢」を踏まえて次の7つを環境方針といたします。

- ① 省エネルギーに努めて、これに付随して発生する有害ガス（CO<sub>2</sub>, NO<sub>x</sub>, SO<sub>2</sub>等）削減のための方策を整えてこれを実行します。
- ② 当社の事業活動によって発生する産業廃棄物及び不用副産物の分別を行い、再資源化を図ります。
- ③ 節水に心掛け、雨水の利用に努めます。
- ④ 化学物質については、塗装工事に使用する塗料が対象となるので、量的管理と付着した容器及び養生材料を適正に処理すること。
- ⑤ リサイクル商品及びエコ商品、省資源型機械をなるべく使用して、環境への負荷を減らす。特に地産材の利用を図る。
- ⑥ なるべく自然に近い材料を使いCO<sub>2</sub>集約材料の使用を減らす。しかし顧客要望、設計者優先の施工に努める。
- ⑦ 環境関係法令の遵守と実行をし、取組状況を公表いたします。

これらの内容は、全ての従業員に周知させます。また、環境目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。

平成22年11月16日

高木建設株式会社

代表取締役社長 **高木 正雄**

## 2. 組織の概要

### 1) 事業所及び代表者名

高木建設株式会社  
代表取締役社長 高木 正雄

### 2) 所在地

本社	長野県長野市安茂里小市1丁目3番31号
機材センター	長野県長野市安茂里小市1丁目1番9号
高府営業所	上水内郡小川村大字高府8451
中条営業所	長野県長野市中条堀切46
エースホーム長野店	長野県長野市安茂里小市1丁目3番19号

### 3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	専務取締役 高木 春光
担当者	環境事務局 高木 亜矢子
連絡先	TEL : 026 (226) 6061 FAX : 026 (228) 5459 HP : <a href="http://www.takagi-kk.co.jp/">http://www.takagi-kk.co.jp/</a> E-mail : <a href="mailto:gm.eco@takagi-kk.co.jp">gm.eco@takagi-kk.co.jp</a>

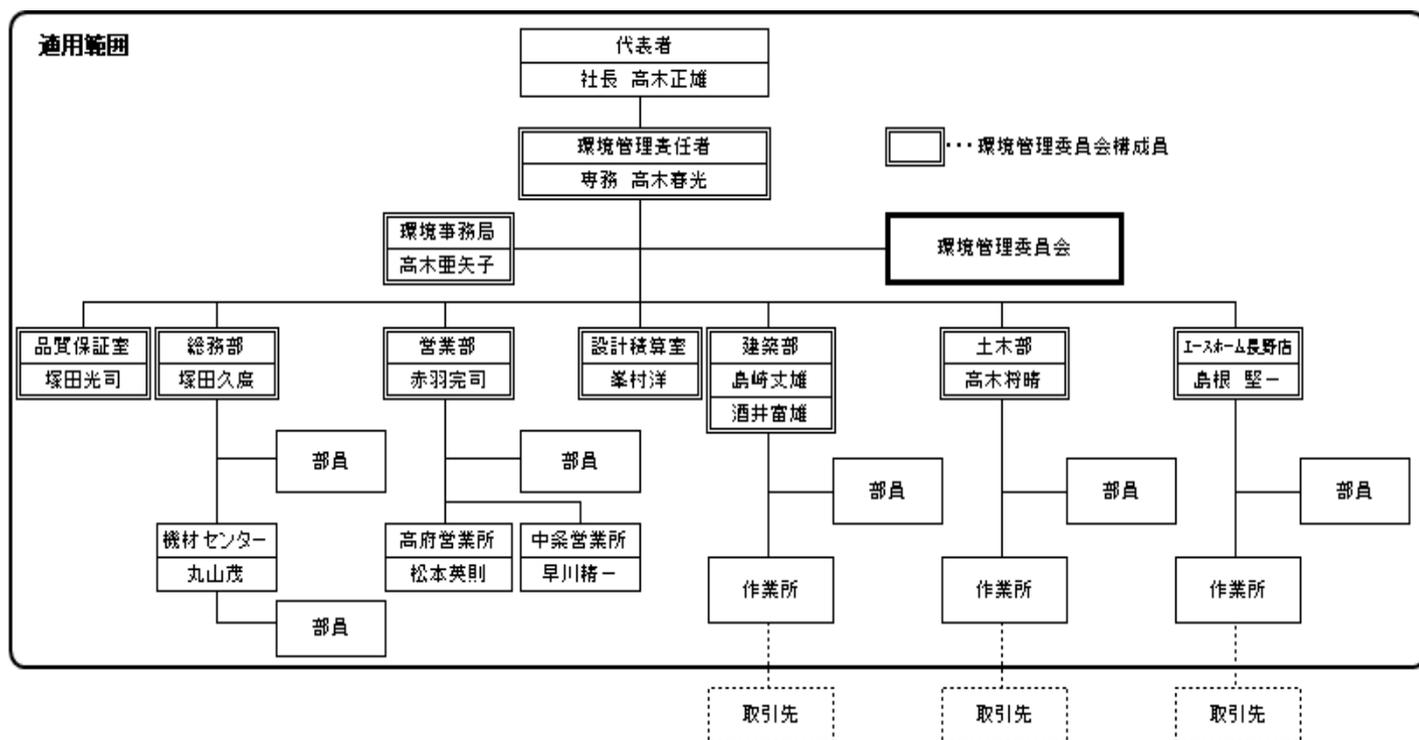
### 4) 事業内容

建設業	許可番号 長野県知事 許可(特-21)第3951号 建設業の種類 土木工事業、建築工事業、大工工事業、とび・土工工事業 屋根工事業、電気工事業、管工事業、鋼構造物工事業 舗装工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業 造園工事業、建具工事業、水道施設工事業
宅地建物取引業許可	長野県知事(9)第2037号
一級建築士事務所	長野県知事登録(長野)M第93122号
産業廃棄物収集運搬業許可	長野県 2008069865

### 5) 事業の規模

売上高	32億1,921万円 (59期:2009年8月16日~2010年8月15日)
従業員数	73名
本社建物	鉄骨造平屋建て 延床面積 632.06 m <sup>2</sup>

6) 環境経営システム組織図



7) 環境経営システムにおける役割・責任・権限表

組織	役割・責任・権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境管理責任者の任命</li> <li>環境経営システム運用のための人的資源・設備・技能・技術者並びに資金の確保</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知</li> <li>環境目標・環境活動計画書の承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しの実施</li> <li>環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理 責任者 (専務)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築・運用・管理の責任者</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表の承認</li> <li>環境目標・環境活動計画書の確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境活動レポートの確認</li> </ul>
環境管理 委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者＋部門長＋環境事務局が構成員</li> <li>環境経営システム運用上の決議機関</li> <li>環境目標・環境活動計画の策定</li> </ul>

組 織	役 割・責 任・権 限
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、環境管理委員会の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境目標、環境活動計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>・特定された緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境活動レポートの作成、公開</li> </ul>
部 門 長 センター長 営業所長 店 長 作業所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営システムの実施担当者</li> <li>・自部門における環境方針の周知</li> <li>・自部門の部員に対する教育訓練の実施、記録の作成</li> <li>・自部門・作業所に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・自部門における緊急事態へのテスト、訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。</li> </ul>
全 社 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針・環境目標の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的・主体的な環境活動への参加</li> </ul>

### 3. 基準年の環境負荷と環境目標

当社における環境目標と実績は以下の通りです。

\*目標値は、2007年度対比-3%（2008年） -3%（2009年） -4%（2010年）とし、3年間で-10%の削減を目指す。

\*当社における取りまとめの期（期間）については、8月16日～翌年8月15日まで。  
（産業廃棄物については年度管理とする。）

\*運用開始は2009年1月から。

#### 1) 二酸化炭素の排出量削減

- 1) - ① 電力の削減
- 1) - ② 自動車燃料（ガソリン）の削減
- 1) - ③ 自動車燃料（軽油）の削減
- 1) - ④ 灯油の削減

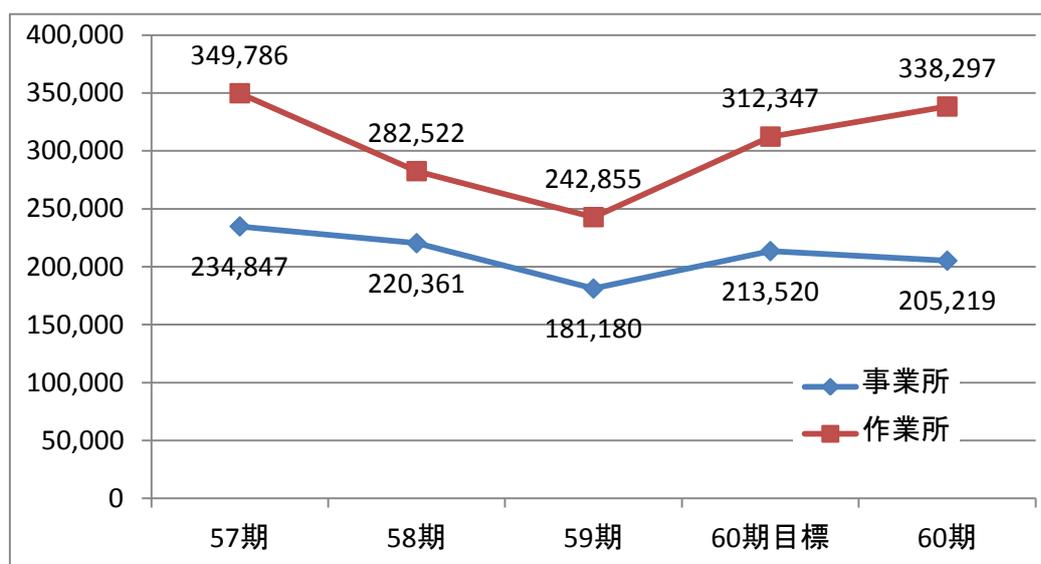
< 本社・事業所 >

環境目標	07年実績 (57期)	08年実績 (58期)	09年実績 (59期)	10年目標値 (-10%)	10年実績 (60期)
C02 総排出量 削減(kg-C02)	234,847	220,361	181,180	213,520	205,219 (07対比-12.7%)
電力 C02 排出量	38,648	35,114	29,138	34,783	30,792
ガソリン C02 排出量	160,347	158,955	155,021	146,470	148,989
軽油 C02 排出量	17,113	14,156	11,945	15,402	12,051
灯油 C02 排出量	18,460	11,936	13,891	16,614	13,082
LPガス C02 排出量	279	200	323	251	305

< 作業所 >

環境目標	07年実績 (57期)	08年実績 (58期)	09年実績 (59期)	10年目標値 (-10%)	10年実績 (60期)
C02 総排出量 削減(kg-C02)	349,786	282,522	242,855	312,347	338,297 (07対比-3.3%)
電力 C02 排出量	48,526	52,541	31,213	46,673	51,195
ガソリン C02 排出量	11,645	15,262	12,673	8,322	10,631
軽油 C02 排出量	164,783	161,221	155,274	148,304	164,432
灯油 C02 排出量	121,953	51,152	40,786	109,757	110,122
LPガス C02 排出量	2,879	2,346	2,909	2,591	1,915

< C02 総排出量の推移 >



\*C02 総排出量は、事業所においては目標を達成したが、作業所においては目標値への削減は達成出来なかった。(電力・軽油・灯油の増加が原因)

## 2) 廃棄物の削減

### 2) - ① 一般廃棄物（紙）の削減

#### 2) - ①-1 紙資源のリサイクル

<全ての部門>

環境目標	07年実績 (57期)	08年実績 (58期)	09年実績 (59期)	10年目標値 (+10%)	10年実績 (60期)
白上質紙・雑誌 カクゴ等 (t)	1.27 (概算値)	1.66	2.12	1.34 t	1.569 (+23.5%)

\*紙資源のリサイクル量、2007年比-10%ではなく+10%が目標である。

### 2) - ① 一般廃棄物（紙）の削減

#### 2) - ①-2 可燃ごみの排出量削減

<本社・事業所>

環境目標	07年実績 (57期)	08年実績 (58期) 運用7ヵ月実績	09年実績 (59期)	10年目標値 (-10%)	10年実績 (60期)
可燃ごみ排出量 削減 (kg)	634 (参考値)	157.5 (参考値)	263.9	570kg	230.7 (-63.7%)

\*2-①-1で紙資源のリサイクル率をUPさせ、可燃ごみ排出量を削減する。

### 2) - ② 産業廃棄物の削減（最終処分・単純焼却率の低減）

<作業所 産業廃棄物排出量 (t) >

環境目標	07年実績	08年実績	09年実績	目標値	10年実績
廃棄物総排出量(t)	7,579.31	39,764.27	10,417.20		15,317.90

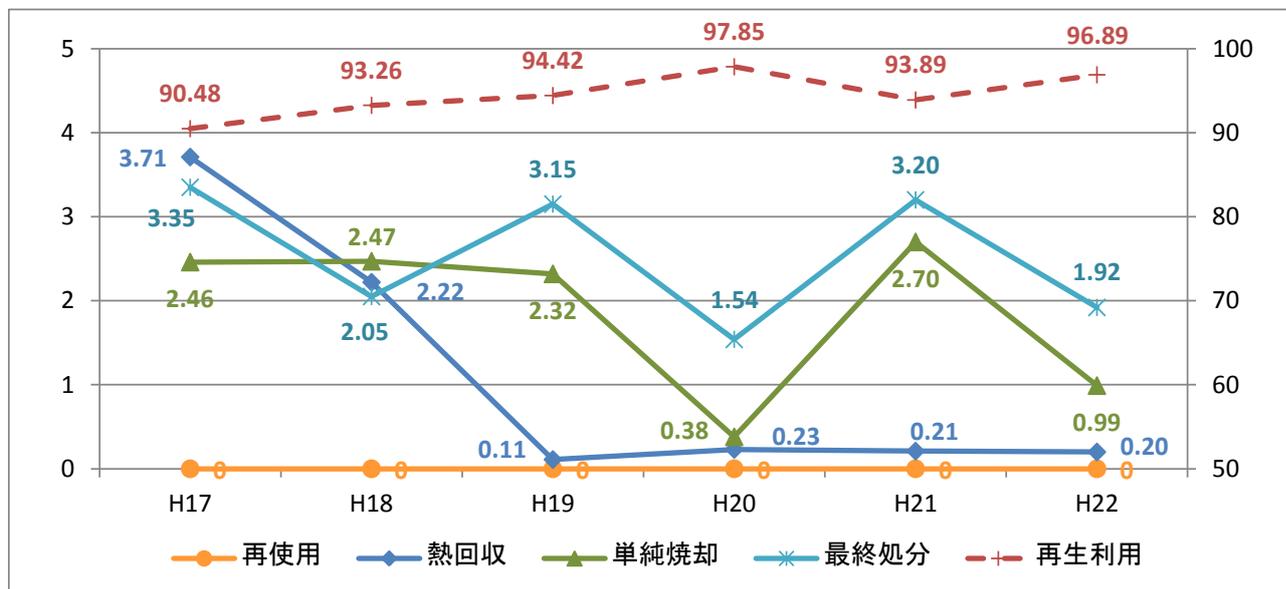
<循環資源・熱回収 量(t)・率(%)>

年 度		循環資源量		廃棄物量		廃棄物	合 計
		再使用	再生利用	熱回収	単純焼却	最終処分	
平成18年	量	0	11600.46	276.60	307.37	255.06	12439.49
	%	0%	93.26%	2.22%	2.47%	2.05%	100%
平成19年	量	0	7156.32	8.59	176.00	238.40	7579.31
	%	0%	94.42%	0.11%	2.32%	3.15%	100%
平成20年	量	0	38907.81	89.79	152.10	614.57	39764.27
	%	0%	97.85%	0.23%	0.38%	1.55%	100%
平成21年	量	0	9780.70	21.80	280.80	333.90	10417.20
	%	0%	93.89%	0.21%	2.70%	3.21%	100%
平成22年	量	0	14841.40	30.90	152.00	293.60	15317.90
	%	0%	96.89%	0.20%	0.99%	1.92%	100%

\* 産業廃棄物の排出量の削減を目指すのではなく、最終処分・単純焼却量を－10%削減し、循環資源・熱回収へ転換させることを目標としている。

\* 産業廃棄物の取りまとめについては、4月～翌年3月末日までとする。

<年度における排出量率(%)>



3) 水道使用量の削減

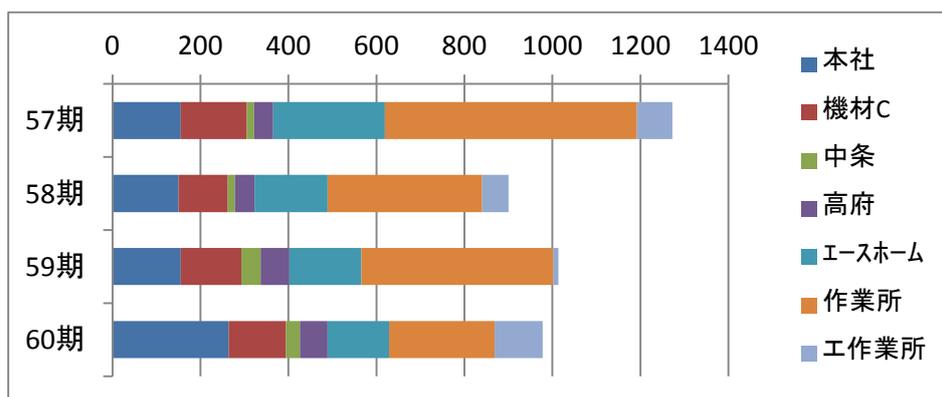
<本社・事業所>

環境目標	07年実績 (57期)	08年実績 (58期)	09年実績 (59期)	10年目標値 (-10%)	10年実績 (60期)
水道使用量(L)	619	479	564	557.1	629.5 (+1.6%)

<作業所>

環境目標	07年実績 (57期)	08年実績 (58期)	09年実績 (59期)	10年目標値 (-10%)	10年実績 (60期)
水道使用量(L)	654	411	448	588.6	348.5 (-46.8%)

<期毎の総排出量 (L) >



#### 4) 化学物質使用量の把握及び適正管理

作業所における化学物質の使用量を把握し、適正に管理されているか確認する。現場で使用する化学物質が必要な場合、化学物質安全性データシート (MSDS) を取引先より取り寄せ、MSDS 又はメーカーの取り扱いに従って適正に管理する。

#### 5) グリーン購入の検討

##### 5-① グリーン購入対象事務用品の購入促進

グリーン購入対象事務用品の選定を行う。また、会議体等を通じて購入の検討を促す。購入率については時期の目標とする。

##### 5-② 再生資材の使用促進

再生資材の選定を行い、使用量を把握する。また、再生資材の使用促進を図るため、会議体等を通じて使用の促進また紹介を行う。

#### 6) 省エネルギー型製品の設計、環境に配慮した製品の製造、環境負荷の少ない工法を提案する。

設計段階において顧客へ積極的に提案を行う。

### 4. 環境活動計画の内容と達成状況

1, 二酸化炭素排出量の削減		
1-① 電力の削減		
<環境活動計画の概要> ・電気使用の教育・訓練 ・不要照明の消灯・撤去 ・待機電力の防止 ・昼食時・外出時の PC 電源 OFF ・冷房 28℃、暖房 20℃設定 ・クールビス・ウォームビス運動 ・電気ポットの使用は原則禁止 ・太陽光発電の導入 ・取引先への節電協力の指導 ・ソーラーパネルを搭載した機材の使用	(事業所)達成区分：○ 07 実績：69635 kw 目標：62671 kw 10 実績：55485 kw 達成状況：-20.3%	評価：各自が積極的に節電に取り組んだ結果、目標は達成された。本社のクーラー電力及び設計積算室・土木部における夜間電力使用量が増加しているが、全体においては使用量が削減された。
	(作業所)達成区分：× 07 実績：87433 kw 目標：78690 kw 10 実績：92245 kw 達成状況：+5.5%	
<次期への取組み> 全体的には削減されているため引き続き節電に取り組む。特に事業所（本社）においては、夏場のクーラー使用量の節減に取り組み、作業所においては提案を積極的に取り入れていきたい。		

達成区分：○目標達成，△7割達成，×目標未達成

1-② 自動車燃料（ガソリン）の削減		
<環境活動計画の概要> ・全社有車・工事車両の燃費向上の啓発 ・全社有車の運転記録管理・点検実施 ・エコドライブの実施 ・アイドリングストップ ・急加速・急停車の防止 ・冷暖房の控え目使用 ・効率の良い営業・打合せ・現場管理等 ・相乗り乗車の強化 ・休祝日の社有車の使用禁止	(本社)達成区分：△ 07 実績：69065.46 L 目 標：62159.00 L 10 実績：63703.73 L 達成状況：-7.8%	評価：目標は達成されなかったが、一昨年-0.9%、昨年-3.3%今年は-7.8%と徐々に削減されている。運転記録管理の徹底も行われている。 燃費の向上については、前年とほぼ同様の数値となっている。引続き全社有車の燃費向上を図る。
	(燃費) 08 年実績 12.46km/リットル 10 年実績 12.42km/リットル (作業所)達成区分：× 07 実績：4845.83 L 目 標：3585.00 L 10 実績：5050.31 L 達成状況：+4.2%	
<次期への取組み> 社有車については引続き燃費向上を図る。作業所では現場規模によってバラツキが見られるため、消費量と工事高での比較を行っていく。		
1-③ 自動車燃料（軽油）の削減		
<環境活動計画の概要> ・全社有車・工事車両の燃費向上の啓発 ・全社有車の運転記録管理・点検実施 ・エコドライブの実施 ・アイドリングストップ ・急加速・急停車の防止 ・冷暖房の控え目使用 ・建設機械の対策型機種仕様 ・建設機械 稼働時以外エンジンをストップ	(本社)達成区分：○ 07 実績：6521.53 L 目 標：5869.00 L 10 実績：4592.39 L 達成状況：-29.6%	評価：各自が意識を持って取り組んだ結果、目標は達成された。ガソリン車同様に燃費向上を図る。 評価：今冬は降雪が多かったため除雪による使用量が増加したため07年度の使用量に戻ってしまった。
	(作業所)達成区分：× 07 実績：62835.06 L 目 標：56511.00 L 10 実績：62823.82 L 達成状況：0.0%	
<次期への取組み> 工事車両及び作業所での使用量が多いため、ガソリンと同様、消費量と工事高を加味して集計していく。		
1-④ 灯油の削減		
<環境活動計画の概要> ・灯油使用の教育・訓練 ・暖房の設定温度20℃ ・必要以外の暖房機器のスイッチOFF ・ウォームビス運動	(事業所)達成区分：○ 07 実績：7124.3 L 目 標：6667.0 L 10 実績：5318.7 L 達成状況：-28.1%	評価：エースホームでの増加はあったや寒冬ではあったが、薪ストーブ、設定温度の配慮、ウォームビスの取組によって目標は達成された。

<ul style="list-style-type: none"> <li>薪ストーブの使用</li> <li>取引先への灯油使用削減の指導</li> <li>灯油タンク設置状況の確認</li> </ul>	(作業所)達成区分：× 07 実績：21108.4 L 目 標：18997.0 L 10 実績：33690.2 L 達成状況：+59.6%	評価：建築現場においては3倍の使用量があった。コンクリート打設が冬季に重なったことが原因である。																															
<次期への取組み> 建築工事の大規模現場での使用量が大半を占めているため、削減方法を検討する。																																	
<b>2, 廃棄物の削減</b>																																	
<b>2-① 一般廃棄物(紙)の削減</b>		<b>2-①-1 紙資源のリサイクル</b>																															
<ul style="list-style-type: none"> <li>紙資源の回収及びリサイクル</li> <li>ダンボール回収及びリサイクル</li> <li>コピー用紙裏面使用</li> <li>ミスコピー・ミス印刷の防止</li> <li>分別方法の指導・徹底</li> <li>資料のペーパーレス化</li> <li>作業所等本社への持ち込みの指導・徹底</li> </ul>	(全社)達成区分：○ 目 標：1.397 t 09 実績：2.120 t 10 実績：1.569 t 達成状況：+23.5% (リサイクル率 up)	評価：資源化に対する各自の意識が高まり、紙資源のリサイクル量が増加し、目標が達成された。中条営業所、作業所からの紙資源の持ち込みも年々増加している。																															
<次期への取組み> 本社・エースホームにおけるリサイクルは徹底されているので、営業所及び作業所からの持ち込み量を増加するよう指導していく。																																	
<b>2-① 一般廃棄物(紙)の削減</b>		<b>2-①-2 可燃ごみの排出量削減</b>																															
<ul style="list-style-type: none"> <li>可燃ごみの分別・リサイクルの指導・徹底</li> <li>メモ用紙等の雑紙もリサイクルへ</li> <li>各自によるゴミ箱の処理の徹底</li> <li>廃棄物の発生抑制</li> </ul>	(全社)達成区分：○ 目 標：570.0 kg 09 実績：236.9 kg 10 実績：230.7 kg 達成状況：-140.4% (可燃ごみ排出量 down)	評価：各自によるゴミ分別処理、紙資源のリサイクルの意識が高まった結果、可燃ごみの排出量が減り、目標が達成された。増加している事業所もあるので、指導を行う。																															
<次期への取組み> 事業所に常勤している人員を考慮すると高府営業所の排出量が多いため、削減に努めていく。																																	
<b>2-② 産業廃棄物の削減</b>																																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>分別の徹底</li> <li>単純焼却・最終処分量の削減、循環資源・熱回収への転換</li> <li>委託契約書・マニフェスト管理の確認</li> <li>廃棄物中間・最終処分場のチェック</li> </ul>			評価：産業廃棄物総排出量より各項目の%を算出した結果、単純焼却・最終処分率はマイナス、再生利用は90%以上で達成、熱回収はプラスとなり達成となった。																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>単純焼却率 (down)</th> <th>最終処分率 (down)</th> <th>再生利用率 (up)</th> <th>熱回収率 (up)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>07 実績</td> <td>2.32%</td> <td>3.15%</td> <td>94.42%</td> <td>0.11%</td> </tr> <tr> <td>09 実績</td> <td>2.70%</td> <td>3.21%</td> <td>93.89%</td> <td>0.21%</td> </tr> <tr> <td>目 標</td> <td>2.09%</td> <td>2.84%</td> <td>90%以上</td> <td>0.11%以上</td> </tr> <tr> <td>10 実績</td> <td>0.99%</td> <td>1.92%</td> <td>96.89%</td> <td>0.20%</td> </tr> <tr> <td>達成状況</td> <td>-1.33% ○</td> <td>-1.23% ○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	単純焼却率 (down)	最終処分率 (down)	再生利用率 (up)	熱回収率 (up)	07 実績	2.32%	3.15%	94.42%	0.11%	09 実績	2.70%	3.21%	93.89%	0.21%	目 標	2.09%	2.84%	90%以上	0.11%以上	10 実績	0.99%	1.92%	96.89%	0.20%	達成状況	-1.33% ○	-1.23% ○	○	○			
項 目	単純焼却率 (down)	最終処分率 (down)	再生利用率 (up)	熱回収率 (up)																													
07 実績	2.32%	3.15%	94.42%	0.11%																													
09 実績	2.70%	3.21%	93.89%	0.21%																													
目 標	2.09%	2.84%	90%以上	0.11%以上																													
10 実績	0.99%	1.92%	96.89%	0.20%																													
達成状況	-1.33% ○	-1.23% ○	○	○																													

<p>&lt;次期への取組み&gt;          分別の徹底及び3Rを推進し、引続きリサイクル率90%以上は確保していく。法令遵守！</p>		
<p><b>3, 水道使用量の削減</b></p>		
<p>3, 水道使用量の削減</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水の呼び掛け</li> <li>・台所で使用する水の節水</li> <li>・トイレの節水</li> <li>・水の出しっぱなし防止</li> <li>・雨水の利用促進</li> </ul>	<p>(事業所)達成区分：×          07 実績：619.0 L          目 標：557.1 L          10 実績：629.0 L          達成状況：+1.6%</p>	<p>評価：本社・中条・高府にて増加している。本社では、トイレ漏水、碎石搬出ダンプの持ち出し防止散水による使用量が原因である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水の呼び掛け</li> <li>・台所で使用する水の節水</li> <li>・トイレの節水</li> <li>・水の出しっぱなし防止</li> <li>・雨水の利用促進</li> </ul>	<p>(作業所)達成区分：○          07 実績：654.0 L          目 標：588.6 L          09 実績：348.0 L          達成状況：-46.8%</p>	<p>評価：節水の意識付けにより作業所においても積極的に取り組み、工事用に雨水を利用するなどに取り組んだ結果、目標が達成された。</p>
<p>&lt;次期への取組み&gt;          節水に心掛け、雨水利用を促進する。</p>		
<p><b>4, 化学物質使用量の把握及び適正管理</b></p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で化学物質を使用する際は、使用量を明確にする</li> <li>・現場で使用する化学物質で必要な場合、化学物質安全性データシート (MSDS) を取引先より取り寄せる</li> <li>・MSDS 又はメーカーの取り扱いに従って適正に管理する</li> <li>・安全パトロール・内部監査・現場巡回時に使用量の確認及び適正管理のチェックを行う</li> </ul>	<p>達成区分：○</p>	<p>評価：各現場で工種毎の「施工計画書」に使用する化学物質を明確にし、必要な場合は取引先より MSDS を取り寄せ、出荷証明書により数量も確認した。日々の管理は作業安全日誌を使用して行った。</p>
<p>&lt;次期への取組み&gt;          化学物質使用量の把握は、種類を絞って明確化を図る。また管理方法も種類によって明確にする。</p>		
<p><b>5, グリーン購入の促進</b></p>		
<p>5-① グリーン購入対象事務用品の購入促進</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会・ECO 通信・会議体を通じてグリーン購入の促進について指導する</li> <li>・事業所・現場事務所では環境配慮商品 (グリーン購入) の購入・使用を行う</li> <li>・本社の事務用品購入において、毎月のグリーン購入率を調査する (価格も検討)</li> </ul>	<p>達成区分：○</p>	<p>評価：ECO 通信にて、グリーン購入の促進について指導。文具用品のグリーン購入対象商品の一覧を作成した。購買率については次年度の目標とする。また舗装工事 (舗装班) においては、乳剤を環境に優しい資材を取り入れた。</p>
<p>&lt;次期への取組み&gt;          引続きグリーン購入の意識を高めるよう指導し、文具用品の購買率を把握する。</p>		

5-② 再生資材の使用促進	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場において再生資材の使用を検討し、発注者に提案する</li> <li>・各現場にて再生資材の使用を施工計画書等に明確にする</li> <li>・循環資源の使用量を増加させる（総物質投入量にて把握する）</li> </ul>	<p>達成区分：○</p> <p>評価：各現場にて再生資材の使用を「施工計画書」に明確にした。砕石・アスコンは再生品を出来る限り使用し、その他の資材はECO通信にて「信州リサイクル認定製品」の案内を定例会にて提示し、使用を促した。</p>
<p>&lt;次期への取組み&gt;</p> <p>現場ごとの再生資材の使用を把握するために「工事完了報告書」等に記載するよう指導する。</p>	
6, 省エネルギー・省資源型製品の設計、環境に配慮した製品の製造、環境負荷の少ない工法を提案する。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電の利用の提案</li> <li>・ヒートポンプ・給湯設備の断熱化、空調設備等の省エネの提案</li> <li>・Low-e ガラス、二重窓、複層ガラスの設置等の提案</li> <li>・日射の室内への導入、床や壁面での蓄熱、通風の活用等を提案</li> <li>・照明機器の省エネルギー化の提案</li> <li>・敷地内、壁面、屋上等の緑化の提案</li> <li>・耐久性に優れた材料・工法等の採用提案（長期優良住宅）</li> <li>・環境負荷の少ない資材の積極的使用等の提案</li> <li>・雨水の利用提案</li> <li>・節水型トイレ等の提案</li> </ul>	<p>達成区分：○</p> <p>評価：省エネ・省資源型製品の設計、環境に配慮した製品の提案及び採用として、エコポイント物件、オール電化住宅、太陽光発電設置、長期優良住宅を施工出来た。</p> <p>また、現場毎に「施工計画書」の中で環境対策項目を設定し、環境に配慮しながら施工に努めることが出来た。確認は現場パトロール及び「工事完了報告書」にて確認している。</p>
<p>&lt;次期への取組み&gt;</p> <p>引続き顧客への提案を行っていく。各現場での提案・採用情報を収集していきたい。</p>	

達成区分：○目標達成，△7割達成，×目標未達成

## 5. 環境活動の取組結果の評価

エコアクション21環境経営システムを導入して3年が経過し、全社において社員一人ひとりの意識が高まり、環境配慮に対する取組みは積極的に行われている。受注量や受注物件（工種）、気候等により数字的には目標未達成の項目もあるが、意識のレベルは上がっているように感じる。

作業所では、各自の自主的な取組みが見られ、思い掛けない対策も採用されている。創意工夫や取組みが発注者の評価に結び付くと一層良いと思う。

徹底した対策を講じて、CO<sub>2</sub>削減・水資源の保全・廃棄物の削減と再利用に努力していく。単なる削減だけでは限界になるので、3R（Reduce：発生抑制・Reuse：再使用・Recycle：再生利用）の方法に進んでいきたい。

行かせる農作物の生産・古民家再生・太陽光発電・風力発電への取組みを進める。また、地元産の木材利用・茅葺き屋根・土壁工法など在来自然型工法についても業務として提案・施工していく。

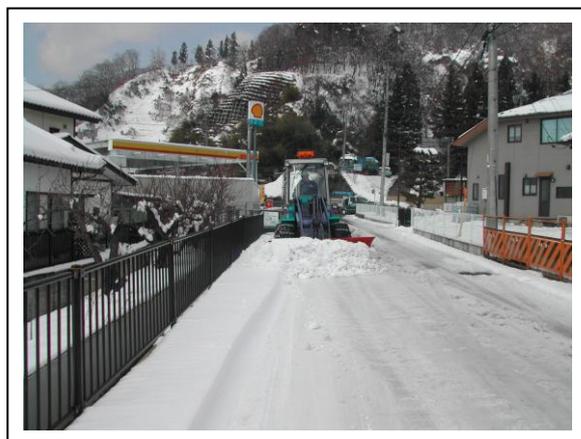
平成23年10月20日

高木建設株式会社

代表取締役社長 高木 正雄

## 6. 社会及び地域への取組み

- |                   |          |
|-------------------|----------|
| ・環境整備活動（ボランティア活動） | 1回/月     |
| ・裏山整備活動           | 2～3回/年   |
| ・冬季雪かき            | 積雪があった場合 |
| ・災害時井戸水供給協定       | 通年       |
| ・権現様（お地藏様）廻り草刈り   | 1～2回/年   |
| ・会社周辺及び散歩コースのゴミ拾い | 通年       |
| ・美化活動（花の苗）        | 2～3回/年   |
| ・作業所における環境整備活動    | 1回以上/施工中 |
| ・献血               | 2回/年     |





## 7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

### 1) 当社に適用される環境関連法規の遵守状況

下記の通り環境関連法規及び条例を事業所、作業所ともに遵守しており、違反はありません。また、関係当局より違反等の指摘も過去3年間ありません。

NO.	法律名	遵守すべき要求事項	遵守状況
1	騒音規制法	◆特定建設作業実施の届出	遵法
2	振動規制法	◆特定建設作業実施の届出	遵法
3	水質汚濁防止法	◆貯油施設の事故時の応急措置と届出	遵法
4	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	◆産業廃棄物収集運搬業者、処分業者との契約（許可の確認、委託契約書の保存）	遵法
		◆産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付（マニフェストの保存）	遵法
		◆産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出（多量排出事業者）	遵法
		・産業廃棄物処理計画書及び産業廃棄物処理計画実施状況報告書の提出	遵法
		◆（産業廃棄物収集運搬業者） ・産業廃棄物収集運搬業の許可 ・産業廃棄物排出業者との契約（委託契約書の保存・マニフェストの保存） ・産業廃棄物の運搬実績報告書の提出	遵法 遵法 遵法
5	消防法	◆少量危険物の貯蔵又は取扱いの届出	遵法
6	高圧ガス保安法	◆危険時通報届	遵法
		◆事故届	遵法
7	フロン回収・破壊法	◆業務用冷凍空調機器の廃棄・整備時のフロン類の回収	遵法
8	資源の有効な利用の促進に関する法律	◆再生資源利用計画書の作成、実施状況の記録、保存	遵法
		◆再生資源利用促進計画の作成、実施状況の記録、保存	遵法
9	建設工事に係る資源の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	◆対象建設工事の届出事項の説明及び届出事項の告知	遵法
		◆再資源化の報告	遵法

### 2) 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等に関して過去3年間、1件も発生しておりません。